

も く じ

香川県教育委員会

★「SC活用ナビ」の使い方

目的・内容の構成・活用方法

1 全ての子どもを対象とした「未然防止」

- ①取組のポイントとSCの活用 p 1-1
- ②教員の教育相談技能の向上を図る p 1-2

2 早期発見・早期対応

- ①取組のポイントとSCの活用 p 2-1
- ②小中連携の推進 p 2-2

(1) 子どもの様子がおかしい！

- こんな子どもはいませんか p 2-4

(2) 校内における情報収集

- 情報収集のポイント p 2-5

(3) SCに相談

- ①SCの専門性が活かされる学校 p 2-6
- ②SCの主な業務 p 2-7
- ③情報共有のポイント p 2-8
- ④子どもの様子を見てもらうには p 2-9

(4) 子どもや保護者との面接

- 子どもや保護者にSCを勧めるには p 2-10

(5) 対応協議

- 不登校対策委員会を実効性のあるものにするために p 2-11

3 継続支援

- ①取組のポイントとSCの活用 p 3-1
- ②関係機関との連携が必要なときには p 3-2
- ③欠席状況に応じた対応 p 3-3

★資料 記録用紙、教育相談年間計画の例

資料 1-9

「S C 活用ナビ」の使い方

香川県教育委員会

1. 目的

不登校を含む長期欠席児童生徒を一人でも増やさないためには、一人一人の教員の子どもに関わる力の向上と、学校における教育相談体制の充実が求められています。また、小・中学校が連携して子どもの9年間の育ちを支援することや配置されているスクールカウンセラーを有効に活用することが大切です。

不登校を含む長期欠席児童生徒への対応においては、全ての子どもを対象とした不登校の未然防止、早期発見・早期対応、さらには、欠席が続く子どもへの継続支援に取り組む必要があります。その際、より効果的な取組を推進するための手引として活用することを目的に、「S C 活用ナビ」を作成しました。

2. 内容の構成

内容は、次の3部から構成されています。

- 1 全ての子どもを対象とした「未然防止」
- 2 早期発見・早期対応
- 3 継続支援

・それぞれ最初に「取組のポイント」と「S C の効果的な活用例」を示しています。

3. 活用方法

次のようなときに活用してください。

- 子どもの様子がおかしいときに
- 校内の教育相談体制づくりに
- 校内研修に
- S C との連携強化のために
- 保護者対応の資料に など

・ねらいに応じて活用できるよう、子どもへの支援の流れに沿って内容を記載しています。
・研修等の資料としてコピーして活用できるようにしています。

4. 備考

- ・教育相談便り「絆」や連絡協議会の研修資料なども同じファイルに綴じ込むようにしてください。
- ・ファイルは分かりやすい場所に保管し、必要に応じて活用できるようにしてください。

1 全ての子どもを対象とした「未然防止」

① 取り組みのポイントとSCの活用

香川県教育委員会

新たな不登校を生まない！

毎日の教育活動を見直し、子ども一人一人が充実した学校生活を過ごせるよう工夫しましょう。



不登校の未然防止に向けた取組のポイント

◆心の居場所づくり

- ・教師と子どもの信頼関係づくり
- ・安心して過ごせる集団づくり

◆子ども同士の絆づくり

- ・主体的に取り組める集団活動の設定
- ・互いのよさを振り返る機会の設定

◆学ぶ喜びのある授業

- ・個に応じた分かる授業の推進
- ・問題解決的な学習の重視と共同の学びの場の設定

Check!

*SCを効果的に活用できていますか？

- ・授業や給食の様子を見てもらうことで、子ども同士の関係づくりで配慮すべき点についての助言を得る。
- ・子ども同士の関係づくりに役立つグループワークを紹介してもらう。
- ・SCを講師に話の聴き方や言葉のかけ方についての校内研修を実施する。

1 全ての子どもを対象とした「未然防止」

② 教員の教育相談技能の向上を図る

香川県教育委員会

教員の教育相談技能の向上を図るには・・・

教員は、個々の子どもへの理解を深め適切に関わり、とともに、よりよい集団づくりに必要な資質や能力を身に付ける必要があります。

また、不登校の初期段階での判断を誤らないよう、精神医学の基礎知識や発達障害、児童虐待などに関する知識を身に付けておくことも重要です。



○校内研修にSCの知識・技能・資源を生かす

- ・校内研修の講話や演習、事例検討の助言を依頼する。
- ・校内研修の講師として適切な人を紹介してもらう。
- ・事例検討やグループワークの持ち方などを相談する。
- ・夏休みに小・中学校の合同研修とすることで、小中連携を推進する。

○教育相談週間にSCを活用する

- ・事前アンケートの作成に協力してもらう。
- ・アンケートの記述で気になるものがあれば事前に見てもらう。
- ・相談相手の選択肢の一人として、子どもに提示する。
- ・教育相談の結果、気がかりな子どもについて相談する。

○SCと一緒に話を聴く機会をいかす

- ・子どもや保護者にSCを紹介するときなどには、子どもや保護者の話をSCと一緒に聴く場合もある。そのときこそ、話の聴き方を学ぶ絶好のチャンス。相談者の思いを引き出し受け止める話の聴き方や、相談者の心の整理を促す言葉の返し方などを学ぶことで、他の子どもや保護者と話をする際の参考とする。

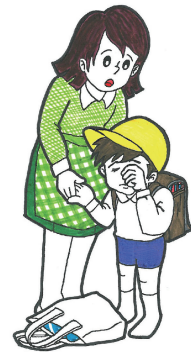
2 早期発見・早期対応

① 取り組みのポイントとSCの活用

香川県教育委員会

連続して学校を休ませない！

働きかけの必要な子どもを迅速に把握すること。
子どもの変化を見逃さないよう、「○日休んだら、
△△する」と年度当初に決めておきましょう。



早期発見・早期対応の取組のポイント

◆進級に向けての
リストアップ

- ・年度末に「年10日以上」の欠席者の把握
- ・学級編制等に活用

◆休み始めたときの
対応

- ・「月3日以上」の欠席は家庭訪問
- ・家庭との連絡による信頼関係づくり

◆子どもの実態の
把握

- ・意識調査や教育相談週間の活用
- ・気になる子どもへの個別の関わり

Check!

*SCを効果的に活用できていますか？

- ・進級時にリストアップする子どもをSCに相談する。
- ・家庭訪問した状況をSCに相談し、必要に応じて、SCとの面接につなげたり、学級担任とSCと一緒に家庭訪問したりする。
- ・教育相談週間の事前アンケートをSCと一緒に作成する。
- ・事前アンケートの結果、気になる記述があれば、SCに相談する。
- ・教育相談週間では、SCへの相談も選択肢の一つとして提示する。

2 早期発見・早期対応

② 小中連携の推進 1

香川県教育委員会

小中連携を図るには・・・

子どもの9年間の育ちを支援するためには、小学校と中学校が情報を共有し子どもへの理解を深めるとともに、有効な支援を引継ぎ発展させる必要があります。また、集団の育成という視点からは小学校間の連携も求められます。



○日頃から情報交換を密にする

- ・中学校入学後、気がかりな子どもについては、小学校の先生に在学時の様子を聞き、対応について助言を得る。高学年時の様子だけでなく、低・中学年時の様子も確認する。
- ・欠席・遅刻・早退等が見られるときは、互いにきょうだいの状況を確認し連携して家庭を支援する。

○小中連絡協議会のもち方を工夫する…「引き継ぎ個票」の例：資料1、2

- ・小・中学校の管理職や教育相談担当、SCが相談し、開催時期や場所、参加者、情報交換の内容等を決め、年間計画に位置づける。

〔年3回開催例〕

回	時期	情報交換の内容	参加者		
			小学校	中学校	SC
1	6月	・中1生の現状説明と小学校在学時の状況確認	教頭、教育相談担当、養護教諭、旧6年団職員	教頭、教育相談担当、1年担任、学年主任、養護教諭	SC
2	12月	・3月の連絡協議会で取り上げる児童の基準や引継ぎの内容の相談	教頭、教育相談担当	教頭、教育相談担当	SC
3	3月	・小6生の状況や支援についての引継ぎ	教頭、教育相談担当、養護教諭、6年担任	教頭、教育相談担当、養護教諭	SC

〔引継ぎ時に必要な情報〕

- ・休み始めたきっかけ・理由、欠席・遅刻・早退の状況
- ・子どもの性格、行動、友人の有無、学力や学習の状況
- ・家族構成、家庭環境、家族との関係、保護者の思い
- ・生育歴、食習慣、発育、健康、生活習慣、家での一日の過ごし方
- ・子どもの得意なこと、興味・関心、長所
- ・これまでに行った支援の内容や方法・・・効果的な手だてや配慮すべき点
- ・スクールカウンセラーとの相談の有無、関係機関との連携の状況 等

2 早期発見・早期対応

② 小中連携の推進 2

香川県教育委員会

SCを生かした小中連携

小学校と中学校の両方に勤務するSCの果たす役割は大きく、その活用については、中学校区のすべての学校で相談し工夫することが大切です。

○SCの活用例

- ・小学校高学年の授業や給食の様子をSCに見てもらい、今後の支援の在り方や中学校に引き継ぐべき情報について相談する。
- ・小6生の授業や給食にSCが参加したり、子どもと面接する機会を設けたりすることで、子どもがSCを身近に感じられるようにし、中学校入学後の支援につなげる。
- ・中学校入学にあたってのアンケートを実施し、その結果をもとに、配慮すべき児童についてSCと相談する。
- ・中学校生活に不安感を抱く子どもや保護者に対してSCとの面接を勧め、中学校での支援につなげる。
- ・入学後登校できるか心配な子どもについては、春休みに小学校の学級担任と一緒に中学校に来て、中学校の教育相談担当、養護教諭、SC等と会う機会を設ける。
- ・中学校入学後の子どもの様子を小学校の学級担任に伝える。

○小・中学校でSC活用計画を見直そう

中学校区の配置時間・回数については、県から上限を示しているが、その運用については、各小・中学校、SCが協議して決めることになっている。次年度のSC活用計画の作成にあたっては、教育相談体制が充実するよう、毎年見直すことが大切である。その際、以下の点に留意する。

- ・各校の勤務時間については、児童生徒数、長期欠席児童生徒数、SCへの相談件数、活用方法等をもとに配分する。
- ・放課後の会議や緊急な対応の時間として予備時間を設定できるが、どのように運用するか年度当初に決めておく。

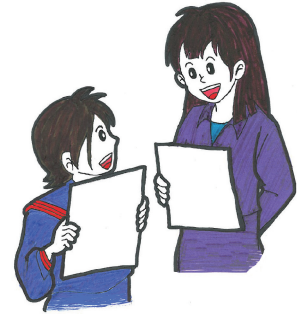
2 早期発見・早期対応

(1) 子どもの様子がおかしい！

香川県教育委員会

こんな子どもはいませんか？

- ・遅刻や早退が多くなった
- ・休み明けに休む
- ・宿題がたまりがち
- ・保健室によく行く
- ・休み時間に一人である
- ・友だちが変わった



取組のポイント

◆変化を見逃さず状況確認

- ・家庭と連絡を取り状況を確認
- ・子どもに対して「心配している」というメッセージを伝達

◆的確なアセスメントの実施

- ・SCと相談
- ・情報を集約し不登校対策委員会を開催

◆学級担任一人任せにせず、チームで支援

- ・複数の教職員が意図的に関わる機会の設定
- ・職員会議等で状況を報告し校内で共通理解を推進

Check!

*SCを効果的に活用できていますか？

- ・給食の時間や休み時間等に子どもに関われるようにすることで、子どもの状況を把握してもらう。
- ・子どもや保護者に面接を勧める。
- ・集約した情報をもとに、学校組織としてどのような内容の指導・支援が必要なのか、関係機関等の支援を求めるべき状況なのかについて助言を得る。

2 早期発見・早期対応

(2) 校内における情報収集

香川県教育委員会

子どもの状況や必要な支援を見立てるために

不登校対応は、可能な限り早い方が効果的である。その際、学校組織として、子どもの状況や必要な支援を的確に見立て、協力体制を整えることが大切です。そのためには、必要な情報を収集し、集約するとともに、SCに相談することで子どもへの理解を深めることが重要です。

○見立てに必要な情報

- ・子ども本人や保護者の思い
- ・不登校状態になる前の子どもの様子とその変化
- ・学習状況
- ・学校での一日の過ごし方
- ・家での一日の過ごし方（休日・平日）
- ・本人の性格
- ・LD、ADHD等の発達障害の可能性
- ・友人関係（いじめ等の問題がなかったか）
- ・学級担任等との人間関係
- ・家庭の状況や養育環境（虐待等の可能性）など

○情報収集のためのポイント

- ・まずは、子どもの話をじっくり聞こう。
- ・早めに家庭訪問し保護者から話を聞こう。
- ・周りの子どもや教科担任、部活動顧問、養護教諭からも情報を集めよう。
- ・以前担任した教員からの情報や、転入学前の学校からの情報も集めよう。
- ・子どもの得意なことや好きなことについての情報は、子どもに関わるきっかけづくりに役立つ。

○保護者から話を聞くコツ

- ・保護者の不安な気持ちを受け止め、労をねぎらう。
- ・苦手なことを聞く前に得意なことを聞く、親子関係を聞く前にきょうだい関係を聞くなど、保護者が話しやすいところから聞くようにする。

2 早期発見・早期対応

(3) SCに相談(① SCの専門性が活かされる学校)

香川県教育委員会

SCの勤務環境を整える！

SCは、「学校におけるカウンセラー」であり、学校の組織・機能、校風等についてよく理解した上で、その専門性の発揮や適切な対応が求められます。

子どもや保護者との面接、教員からの相談への助言、校内研修や事例検討会での助言、専門機関の紹介等が積極的になされるよう環境を整えましょう。

◆あなたの学校ではどうですか？チェックしてみましょう！

- 1 SCの靴箱がある。
- 2 職員室にSCの机がある。
- 3 教職員にSCを紹介した。
- 4 子どもや保護者にSCを紹介した。(広報誌等を含む)
- 5 教職員の氏名・校務分掌等の一覧をSCに渡している。
- 6 教職員にSCの勤務日が予め周知されている。
- 7 行事予定表、週報、学校便り等をSCに配付している。
- 8 SCと管理職や教育相談担当が情報交換する時間がとれている。
- 9 面接の予定等、勤務日の日程がSCに分かるようになっている。
- 10 生徒指導委員会や不登校対策委員会にSCが参加している。
- 11 子どもや保護者がSCと落ち着いて相談できる場所がある。
- 12 SCが授業中や休み時間に子どもの様子を見ることができる。
- 13 SCにも学校行事等の案内をしている。
- 14 小・中学校間でSCの勤務時間変更等の相談が気軽にできる。

○1～14の14項目の内、何個チェックができましたか。

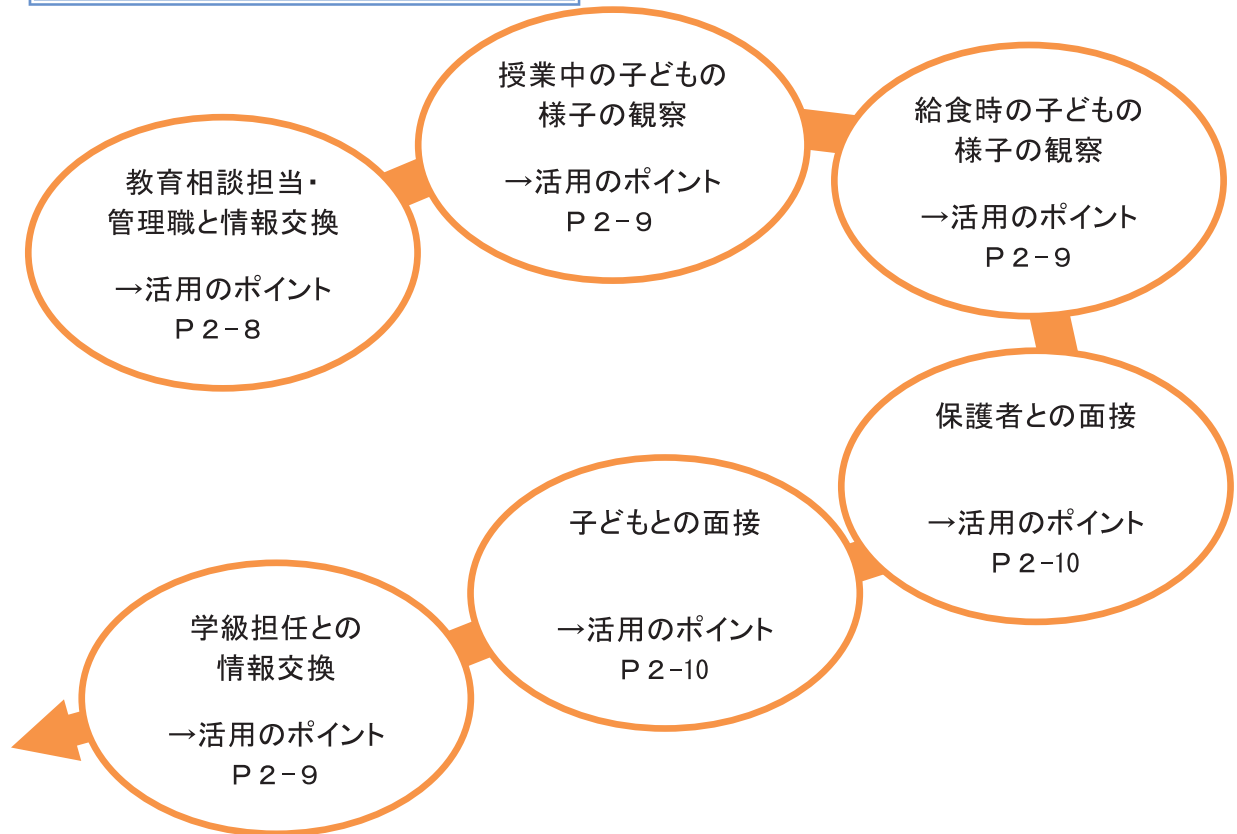
教員が空き時間にSCと気軽に情報交換できるよう、職員室の机の位置を工夫している学校が多くなってきました。入り口近く、管理職の近く、教育相談担当教員、生徒指導、養護教諭の隣等、各学校で互いに声がかかりやすい場所を考えてみましょう。

SCの勤務日が分からなければ、子どもや保護者に面接を勧めることもできません。年間の勤務予定を職員室に掲示したり、月行事予定表や週報に明示したりすることで、見通しをもって活用できるようにしましょう。

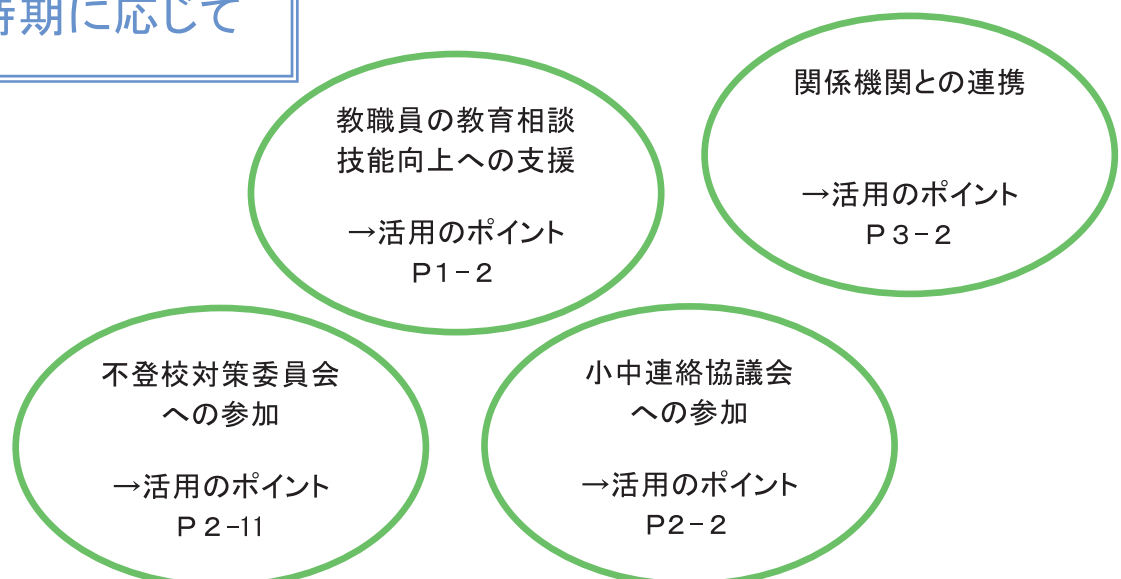
2 早期発見・早期対応
(3) SCに相談(② SCの主な業務)

香川県教育委員会

一日の勤務の主な流れ



時期に応じて



2 早期発見・早期対応

(3) SCに相談(③ 情報共有のポイント)

香川県教育委員会

情報をつなぐ「人、もの、場」の工夫

1週間ぶり、1か月ぶりに勤務するSCにとって、その間の子どもや保護者の様子、学校からの働きかけの状況等は、子どもの状態を見立てるうえで、重要な情報となります。

◆人の工夫◆

○教育相談担当は校内連携の要

- ・学校全体の欠席状況を把握し、変化が見られる子ども、対応に苦慮している子どもの情報をSCに伝え、SCと学級担任とをつなぐ。
- ・管理職に子どもの状態やSCとの連携状況を報告する。

○チームで担う情報共有体制

- ・SCが校内の情報を得やすいように、養護教諭、生徒指導担当、特別支援教育担当等が日頃から連携を図り、情報を共有しておく。

○小中連携が必要なときは教頭先生

- ・SCの勤務の調整、きょうだい事例への対応等、小中連携が必要な場合は、必ず教頭先生に相談し、相手の学校に連絡してもらう。

◆ものの工夫◆

○SCとの「連絡ファイル」の活用…「連絡ファイル」の例：資料3

- ・勤務日の面接予定や、SCと連携して支援している子どもの近況等を記入しSCが来校時に確認できるようにする。
- ・面接の結果等、SCから学校に伝えたいこともメモし、帰りに教育相談担当や管理職に渡す。

○面接記録の作成、活用…「面接記録」の例：資料4

- ・対象の子どもごとに面接記録を作成し、学校で保管する。
- ・SCが代わっても子どもの状況を確実に引継ぐ。

◆場の工夫◆

○不登校対策委員会・生徒指導委員会の活用

- ・SCが参加することで、子どもや保護者への理解が深まる。
- ・SCが参加できない場合は、後日資料を渡し説明する。

○職員室で情報交換

- ・管理職や学年主任を中心に、空き時間に教員が気軽に相談できるよう職員室にSCの居場所をつくる。



2 早期発見・早期対応

(3) SCに相談(④) 子どもの様子を見てもらうには)

香川県教育委員会

子どもに関わりやすい環境づくり

「授業中や休み時間に、気になる子どもの様子をSCに見てほしい」という希望が、小学校を中心に増えています。そのためには、SCが子どもの状況を把握しやすい環境づくりが重要になります。

◆情報交換の工夫◆

○大切なのは、事前事後の情報交換

- ・その子が何に困り、どのような支援が必要なのかを見立てるために、学級担任とSCとの相談の時間を設ける。

<情報交換の内容>

- ・学級担任として何が気になっているのか。
- ・これまでどのような支援をしてきたのか。
- ・学校としてSCに何を望んでいるのか。

○「座席表」は有効なアイテム

- ・授業中の子ども同士の関わりや周りの子どもの様子などがメモできる。
- ・名前が書かれているので、事前事後の情報交換のときに便利である。

◆子どもに関わる場の工夫◆

○「給食」の時間をうまく活用

- ・子どもの集団の中での様子、学級の雰囲気、学級担任の教育観を理解することができて、子どもへの対応を一緒に考えやすい。
- ・学級担任がSCと話すよいきっかけになる。
- ・「気になる子どもがいる学級に」「全ての学級を順番に」など目的にあわせて工夫する。
- ・最初にSCの自己紹介の時間をとるとよい。



○保健室の活用

- ・子どもが保健室に来ている時間にあわせて立ち寄ることで、子どもと話すきっかけができる。
- ・養護教諭が間に入ることで、子どもも安心して話ができる。
- ・来校時に定期的に関わることで、子どもの変容を見取ることができる。

2 早期発見・早期対応

(4) 子どもや保護者との面接

香川県教育委員会

子どもや保護者にS Cとの面接を勧めるには・・・

家庭の状況など「S Cにだから言えること」「S Cだから聞けること」があります。子どもや保護者の心の安定を図り、置かれている状況を把握するうえで、S Cとの面接は重要な役割を担っています。

しかしながら、カウンセリングという言葉に抵抗感を示す子どもや保護者もいます。相談してみようかなと思えるよう、「そのことに詳しい人がいるから相談してみませんか」「わたしも一緒に行きましょう」などと声のかけ方を工夫することも大切です。



○保護者への勧め方

- ・子どもが登校をしぶり始めたなど保護者に困り感があるときや、子どもによい変化がみられたときもチャンス。
- ・個人懇談など保護者が学校に来る機会を生かして、S Cに合わせる。

○子どもへの勧め方

- ・まずは保護者に勧め、保護者とS Cとの信頼関係ができたところで、保護者から子どもに勧めてもらう。
- ・子どもが保健室にいるときにS Cに顔を出してもらい話す機会をつくる。

○S Cへの事前の説明が重要

「とりあえずS Cと会ってくれたら」では、面接はうまくいかない。S Cには事前に以下の点について説明しておくことが大切である。

- ①これまでの対応の経緯
- ②学校が面接を勧めた意図
例「保護者の心の安定を図りたいから」
「専門機関につなぐ必要があるかどうかを見立ててほしいから」
- ③S Cに伝えておく子どもや保護者に約束した内容

S Cに予め伝えておく内容を子どもや保護者に確認し、S Cにも明確に説明することが、S Cと子どもや保護者との信頼関係づくり、また、学校と子どもや保護者との信頼関係づくりにつながる。

2 早期発見・早期対応

(5) 対応協議

香川県教育委員会

不登校対策委員会を実効性のあるものにするために…

児童生徒への対応を学級担任一人に任せきりにすることなく、状況に応じて組織的に対応するためには、管理職、教育相談担当、学年主任、養護教諭、S C等が参加し不登校対策委員会を開くことが有効です。

S Cが参加することで、子どもへの理解が深まり、支援の幅が広がるとともに、個々の教員が自信をもって対応することができます。



○年間計画に位置づけ定期的開催する

- ・「毎月第3火曜日の放課後」などと年度当初に決めS Cの勤務日も調整する。
- ・期間があかない方が変化に対応しやすく、情報交換の時間も短くてすむ。

○資料は簡潔に、説明で補う…一覧表の例:資料5、個人資料の例:資料6、7

- ・休みがちな子どもの一覧表を作成することで、現在、対応を協議する必要がある子どもがよくわかる。
- ・学級担任が作成しやすいよう様式や記載例を提示する。
- ・初めて話し合う際には、「情報がない」ということも重要な情報である。

○対象に応じて参加者を選ぶ

- ・協議対象の子どもを事前に決め、その子の学級担任が参加する。
- ・対象の子どものことをよく知り、また、今後連携して支援する必要がある者を加えることも有効である。

(例) 生徒指導担当、特別支援教育コーディネーター、部活動顧問等

○S Cの役割

- ・子どもの状況や必要な支援を見立て、説明する。
 - ・子どもや保護者との面接で得た情報を提供する。
 - ・支援者の一人として役割を分担する。
- ※学校として期待することをS Cに予め説明しておくとうよい。

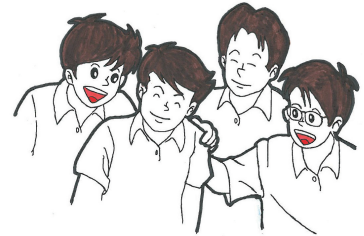
3 継続支援

① 取組のポイントとSCの活用

香川県教育委員会

学校復帰を目指して！

欠席が続く子どもに対しては、継続して働きかけることが大切です。学校復帰を目標に、保護者への支援、学級や学校の受入体制づくりが重要です。



学校復帰を目指した取組のポイント

◆ 定期的な
家庭訪問

- ・ 子どもの好きなことを通して関係づくり
- ・ 学習の遅れをサポート

◆ 保護者への
情報提供

- ・ 保護者に安心感をもってもらう
- ・ 学校の情報を提供して関わりを継続

◆ 学校の受入
体制づくり

- ・ 子ども同士のつながりを大切にする
- ・ 情報を教員間で共有

Check!

* SCを効果的に活用できていますか？

- ・ 家庭訪問時の様子や訪問後の子どもの反応等を記録しておき、SCと情報交換することで、今後の支援方法を相談する。
- ・ 子どもや保護者のカウンセリング時の様子をもとに、SCと教員が情報交換し、子どもや保護者への理解を深める。
- ・ 不登校対策委員会にSCも参加し、支援方法を相談、役割を分担する。

3 継続支援

② 関係機関等との連携が必要なときには

香川県教育委員会

関係機関等との連携が必要なときは…

子どもや保護者の状況によっては、児童相談所（子ども女性相談センター、西部子ども相談センター）や福祉事務所、教育センター、教育支援センター（適応指導教室）、精神保健福祉センター、医療機関等との連携が必要な場合があります。

適切な機関を判断し連携を図るためには、それぞれの機関の特徴や支援内容を知ることが大切です。

○関係機関について知るとは

- ・どのような子どもを対象とした機関なのか。
- ・どのような仕事をしている人が働いているのか。
- ・どのような支援が可能か。
- ・どのようにすれば利用できるのか。
- ・自分の学校の担当者は誰か。

○子どもや保護者に紹介する際には

- ・関係機関がどのような支援をしてくれるところか十分に説明し、その支援が本人にとって必要であることを理解してもらう。
- ・保護者の了解を得て、関係機関に予め連絡しておく。
- ・保護者に紹介した意図や期待する支援について、関係機関に説明しておく。
- ・子どもや保護者の不安が大きい場合は、一緒に行く。
- ・紹介後の状況や関係機関の関わりについて保護者に確認する。
- ・関係機関任せにならないよう、定期的に連絡をとり、互いの支援内容等について情報交換する。

◆SCの活用例◆

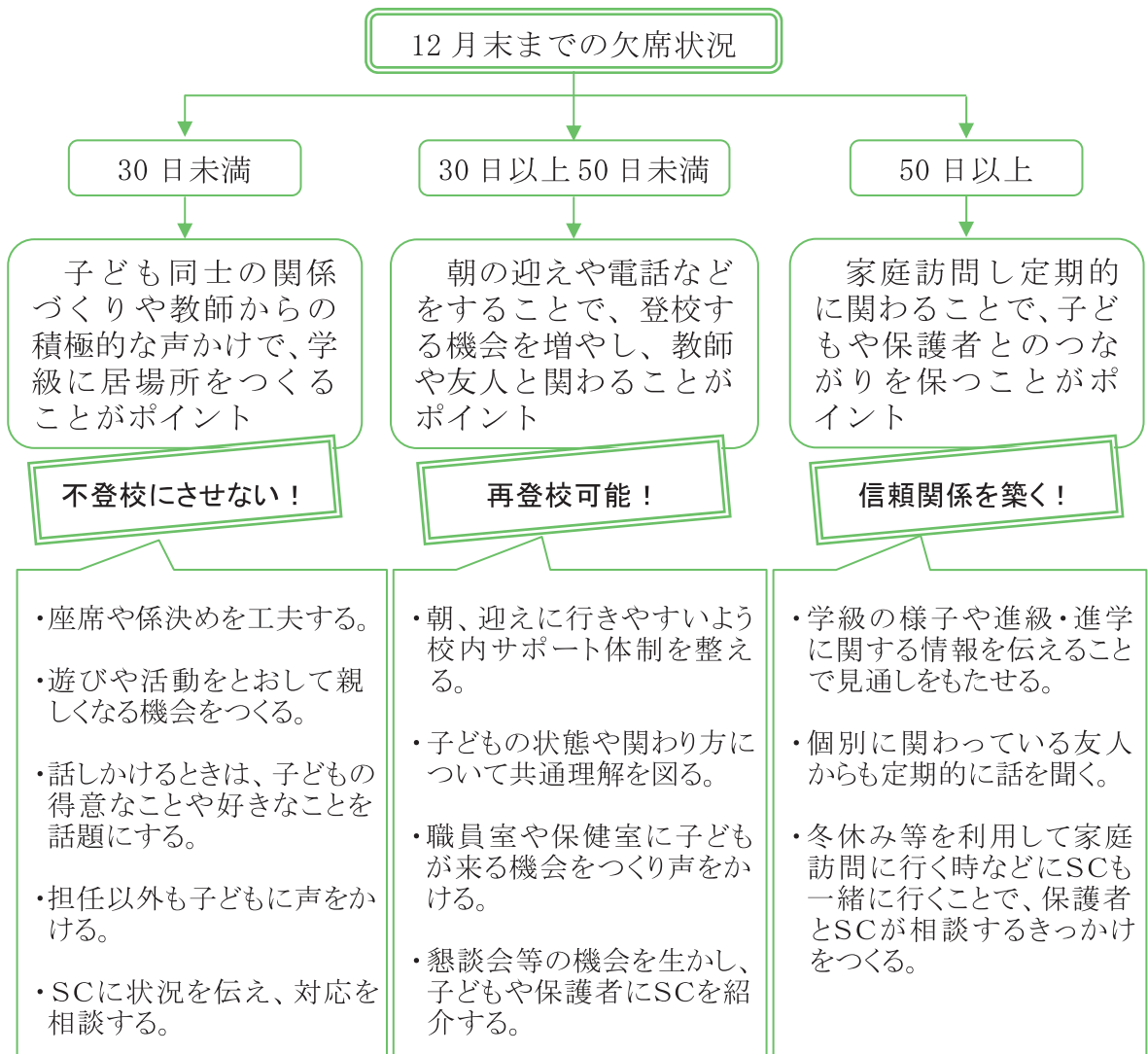
- ・子どもや保護者の状況をもとに関係機関につなぐ必要があるか相談する。
- ・必要な関係機関を紹介してもらう。
- ・保護者に関係機関の特徴や支援内容について説明してもらう。
- ・関係機関との情報交換会や事例検討会に参加してもらう。
- ・関係機関と連携して子どもや保護者を支援する。

3 継続支援

③ 欠席状況に応じた対応

香川県教育委員会

欠席状況に応じて取組を工夫してみましょう



○子どもにとって学校に登校することが大切

- まず、欠席日数が30日未満の子どもは、これ以上欠席日数を増やさないうよう継続して関わる体制づくりが求められる。
- また、欠席日数が30日を超えても50日未満の子どもは再登校の割合が高く、子どもと学校とをつなぐきっかけを見つけることが大切である。
- 欠席日数が50日を超えると再登校は難しくなるが、子どもの社会性の育成や将来の社会的自立のためには学校との関係を切らないことが求められる。定期的に家庭訪問し、子どもと会えないときには保護者と会うことで信頼関係を築くことが大切である。

「引き継ぎ個票」の例

作成日 2012年2月 日

ふりがな												男・女	小学校				6年 組	
氏名												担任氏名					欠席日数	
昨年度の欠席状況	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小4						
1. 気がかりなこと	<input type="checkbox"/> 欠席日数が年30日以上。あるいは30日以上になりそう。 <input type="checkbox"/> 遅刻・早退が多い。(毎日・週に3・4回・週に1回・その他()) <input type="checkbox"/> 教室に入りづらく、保健室や教育相談室で過ごすことがある。 <input type="checkbox"/> その他 (具体的に)											小5						
	その理由・きっかけと思われること											小6						
2. 性格・行動	<input type="checkbox"/> まじめ <input type="checkbox"/> 内向的・おとなしい <input type="checkbox"/> 緊張しやすい <input type="checkbox"/> 自分に自信がない <input type="checkbox"/> わがまま <input type="checkbox"/> 感情の起伏が激しい <input type="checkbox"/> こだわりがある <input type="checkbox"/> 幼い <input type="checkbox"/> 気にしすぎる <input type="checkbox"/> その他 (具体的に)																	
3. 対人関係	<input type="checkbox"/> 友達が多い <input type="checkbox"/> 自分から友達を作るのが苦手 <input type="checkbox"/> いじめられたことがある <input type="checkbox"/> 一人であることが多い <input type="checkbox"/> その場にあった会話ができない <input type="checkbox"/> 相手の気持ちを理解するのが苦手 <input type="checkbox"/> トラブルが多い <input type="checkbox"/> その他 (具体的に)																	
4. 学習の様子	<input type="checkbox"/> おおむね意欲的 <input type="checkbox"/> 基礎基本が身についている <input type="checkbox"/> 宿題を忘れることが多い <input type="checkbox"/> 落ち着きがない <input type="checkbox"/> 書くことが苦手 <input type="checkbox"/> 計算が苦手 <input type="checkbox"/> 手先が不器用 <input type="checkbox"/> その他 (具体的に)																	
5. 家庭環境	家族構成					本人と家族との関係、保護者の考え方など												
6. 仲のよい友達	<input type="checkbox"/> 特になし <input type="checkbox"/> あり (組・氏名)																	
7. スクール・カウンセラーとの相談	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり (主な相談者 母親・父親・本人・その他())																	
8. 関係機関との連携	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり (具体的な機関名)																	
9. 本人の得意なこと、興味・関心、長所など																		
10. 発育、健康、食習慣、成育歴などで留意すべきこと																		
11. 本人・保護者に対して行った支援や配慮すべき点など、中学校への申し送り事項																		

「引き継ぎ個票」の記載例

作成日 2012年2月 日

ふりがな												男	◇◇			小学校	6年 組	
氏名	○○ ○○				女	担任氏名						欠席日数						
昨年度の欠席状況	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小4	8					
	0	0	0	2	5	4	4	2	4	3								
1. 気がかりなこと	<input checked="" type="checkbox"/> 欠席日数が年30日以上。あるいは30日以上になりそう。 <input type="checkbox"/> 遅刻・早退が多い。(毎日・週に3・4回・週に1回・その他()) <input type="checkbox"/> 教室に入りづらく、保健室や教育相談室で過ごすことがある。 <input type="checkbox"/> その他 (具体的に)											小5	15					
	その理由・きっかけと思われること ・小5で仲のよい子と別のクラスになり、新しいクラスになかなかなじむことができなかった。											小6	24					
2. 性格・行動	<input checked="" type="checkbox"/> まじめ <input type="checkbox"/> 内向的・おとなしい <input type="checkbox"/> 緊張しやすい <input type="checkbox"/> 自分に自信がない <input type="checkbox"/> わがまま <input type="checkbox"/> 感情の起伏が激しい <input checked="" type="checkbox"/> こだわりがある <input type="checkbox"/> 幼い <input type="checkbox"/> 気にしすぎる <input checked="" type="checkbox"/> その他 (具体的に 初めてすることへの不安感が強い。)																	
3. 対人関係	<input type="checkbox"/> 友達が多い <input type="checkbox"/> 自分から友達を作るのが苦手 <input type="checkbox"/> いじめられたことがある <input checked="" type="checkbox"/> 一人であることが多い <input type="checkbox"/> その場にあった会話ができない <input type="checkbox"/> 相手の気持ちを理解するのが苦手 <input type="checkbox"/> トラブルが多い <input checked="" type="checkbox"/> その他(具体的に 自分の意見を言わず、人にあわせるところがある。)																	
4. 学習の様子	<input type="checkbox"/> おおむね意欲的 <input type="checkbox"/> 基礎基本が身についている <input checked="" type="checkbox"/> 宿題を忘れることが多い <input type="checkbox"/> 落ち着きがない <input type="checkbox"/> 書くことが苦手 <input type="checkbox"/> 計算が苦手 <input type="checkbox"/> 手先が不器用 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (具体的に 仕上げるのに時間がかかる。)																	
5. 家庭環境	家族構成 				本人と家族との関係、保護者の考え方など ・父親は小5の春から単身赴任中。月に1度帰ってくる。 ・母親から「本人は父親のことをこわがっており、父親が帰ると自分の部屋からあまり出てこようとしない」と聞いた。 ・母親は子どもの言うことを鵜呑みにするところがある。「学校の対応が悪い」と苦情の電話をかけてくることもあった。													
	分かる範囲で記入してください。																	
6. 仲のよい友達	<input type="checkbox"/> 特になし <input checked="" type="checkbox"/> あり (組・氏名)																	
7. スクール・カウンセラーとの相談	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり (主な相談者 母親 ・父親・本人・その他())																	
8. 関係機関との連携	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり (具体的な機関名 子ども女性相談センター)																	
9. 本人の得意なこと、興味・関心、長所など	・歌手の○○が好き。											本人に話しかけたり、関係を築いたりする際の手立てにしたいので、できるだけ具体的に教えてください。						
10. 発育、健康、食習慣、成育歴などで留意すべきこと	・母親から「小さいころぜんそくで入院したことがある」と聞いた。 ・つめかみ、チックが見られる。 ・○○病院で△△と診断された。 ・食べ物の好き嫌いが多く、特に野菜はほとんど食べない。																	
11. 本人・保護者に対して行った支援や配慮すべき点など、中学校への申し送り事項	・宿題ができずに学校を休むことがあったので、放課後や夏休みに個別指導をした結果、9月は休むことなく登校できた。 ・欠席連絡もなく休むことが多く、電話しても出ないので、困っていた。近所に住む祖母と話をし親しくなったおかげで、祖母が起しに行ってくれるようになった。											支援内容や方法、それに対する本人・保護者の反応について書いてください。特に、効果的だった支援内容や方法、また、これは気をつけておいたほうがよいということがあれば、教えてください。						

月 日 ()

1 本日の相談予定

時刻	相談者	メモ
11:30～	打合せ	
13:30～	Aさん母	<ul style="list-style-type: none"> ・担任のY先生が勧めてくれました。 ・5/7に母親から予約の電話 ・相談室登校を勧めてはどうかと考えています。
15:00～	Bさん本人	<ul style="list-style-type: none"> ・午後から相談室に来る予定 ・家族間で何かあったようです。 ・相談室を使ってください。
17:00～	Cさん担任 X先生	<ul style="list-style-type: none"> ・5/10以降欠席 ・家庭訪問しても会えない状況です。

2 教育相談担当からのお知らせ・お願い

- ・4/30に面接していただいたDさんですが、部活動にも参加できています。
- ・6/4の小中連絡協議会のもち方について相談があります。

3 SCからの報告等

面接記録の例

校長

月 日 ()

記載者 ()

面接時間	相談者	相談内容の概要とSCの所見
13:30 ～ 14:20	1-1 Aさん母	(概要) ※面接内容のうち、学校と情報を共有しておく必要のあることを記載する。 ※学校では、情報の取扱いについて十分留意する。
		(所見) ※子ども本人や子どもを取り巻く周囲の状況への見立て ※今後必要な支援 ※面接後、学級担任や教育相談担当等に伝えたこと など
15:00 ～ 15:30	2-2 Bさん	(概要)
		(所見)

不登校対策委員会の資料(出欠席状況一覧表)の例
不登校対策委員会(1月)資料

年	組	番	氏名	欠席日数		累計												近況など		
				H21	H22	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	計	10	11	12	13	16	
1	1	8	〇〇〇〇	35	49	0	0	3	4	7	3	4	3	24	×					1/10放課後、学級担任が家庭訪問。本人「明日から行く」と言い、次の日から遅れずに登校。
1	2	33	△△△△	110	124	0	0	0	1	15	15	19	17	67	×	×	×	×	1/12母親がSCと面接 母親から「冬休みは、家の手伝いをしてくれたい」と聞く。	
																予				<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <記号の意味> ×・・・欠席 予・・・遅刻 早・・・早退 相・・・相談室登校 保・・・保健室来室 </div>
																早	×			
																相	相	相		
																保				

不登校対策委員会の資料（個人資料）の例

不登校対策委員会資料 担任（ ）

()年()組()番 氏名() 男・女	
家族構成	本人・保護者への支援の状況 家庭訪問 回 本人に(会える・会えない) その他の連絡方法
	担任 先生 取り組んでいることや困っていることなど
出席日数	4月 / 日 5月 / 日
現在の状況	学校での様子 登校場所 送迎の有無 本人の様子など
	教師 先生
現在の状況	友達 友達
	相談 SC その他 相談機関

不登校対策委員会資料 記入例

わかる範囲で簡単に！

(5)年(1)組(5)番 氏名() 男・女	
家族構成	本人・保護者への支援の状況 家庭訪問 2回 本人に(会える)会えない その他の連絡方法
	担任 先生 取り組んでいることや困っていることなど
出席日数	4月 2 / 18日 5月 3 / 18日
現在の状況	学校での様子 登校場所 保健室 送迎の有無 行きは母が車で 本人の様子など
	教師 〇〇 先生 ・保健室で話を聞いてもらっている。 ・担任と家庭訪問し、 母親とも話しができる。
現在の状況	友達 5-2 □□ □□
	相談 SC ・昨年12月に1回母親と 面接。 ・5月に勤めると仕事が 忙しいと断られた。 ・昨年12月に腹痛を訴え 登校しづぶったときは、 親子で△△クリニックに 数回通った。

不登校対策委員会の資料（月毎の個人資料）の例

不登校対策委員会資料（7月）

()年()組()番 氏名() 担任()	
欠席 日数	6月 / 21日
学校 での 様子	
家庭 での 様子	
保護 者の 様子	
友達 との 交流	
家庭訪問 本人に 保護者に	6・7月で 会える・会えない 会える・会えない
支援の状況や困っていること	

☆分かる範囲で簡単に

- ★学校での様子
 - ・登下校の時刻
 - ・誰と来ているのか
 - ・登校場所
 - ・活動状況など
 - ★家庭での様子
 - ・睡眠のリズム
 - ・食事は誰と何を
 - ・何をして過ごしているのか
 - ・外出できているか
 - ・荒れ・反抗など
 - ★保護者の様子
 - ・保護者の話
 - ・子どもへの接し方など
 - ★友達との交流
 - ・誰とどのような形で
 - ・頻度など
- ←あてはまるものに○を
- ★支援の状況や困っていること
 - ・本人・保護者への対応
 - ・不登校対策委で話してほしいこと
 - ・S Cに相談したいことなど

不登校対策委員会資料（9月）

()年()組()番 氏名() 担任()	
夏休 みの 様子	○生活の様子
9月 の様 子	○宿題の状況
支 援 状 況	○外出の有無
	夏休み～現在 家庭訪問 _____回 本人に 会える・会えない 保護者に 会える・会えない 困っていること・気がかりなこと

☆分かる範囲で簡単に

- ★生活の様子
 - ・睡眠リズム
 - ・食事は誰と何を
 - ・何をして過ごしていたか
 - ・片付け、散髪など変化があれば
 - ・家庭訪問したときの様子など
 - ★宿題の状況
 - ・取りかかれたか
 - ・できたものはあるか
 - ★外出の有無
 - ・部活動、買い物
 - ・家族、友人との外出など
- ★9月1～4日の様子を簡単に
出欠席、遅刻、早退の状況
学校や家庭での様子
保護者の話
- ←あてはまるものに○を
- ★支援の状況や困っていること
 - ・本人・保護者への対応
 - ・不登校対策委で話してほしいこと
 - ・S Cに相談したいことなど

教育相談年間計画の例

月	学校行事等	教育相談担当の動き	小中連携のポイント	SCの動き
4	入学式 遠足 修学旅行	<ul style="list-style-type: none"> 職員会で、欠席対応の方針を確認 年度当初に支援が必要な子どもの確認 →教職員間で共通理解を図る 再登校を考えている子どもへの対応 教育相談年間計画の作成 (教育相談週間、不登校対策委員会等) SC活用計画の作成 (授業や給食、校内研修等) 	<ul style="list-style-type: none"> SCの年間勤務計画、小中連絡協議会のもち方についての協議 新入生の情報の担任への確実な引継ぎ 入学後、欠席、遅刻、早退等が気になる生徒についての小学校への問い合わせと連携支援 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の体制の把握 (不登校対策の方針、SC活用計画、年間行事予定、教職員の氏名や校務分掌等) 教職員との人間関係づくり 年度当初に支援が必要な子どもの確認 子どもも同士の人間関係づくりに役立つグループワークの紹介 スクールカウンセラー便りの作成
5	運動会 (修学旅行)	<ul style="list-style-type: none"> 職員会で、教育相談週間の提案 不登校対策委員会の開催 (4月に3日以上休んだ子どもの情報共有、支援体制の確認) →職員会で報告、共通理解を図る 小中連絡協議会の資料作成 	<ul style="list-style-type: none"> 中1へのアンケートの実施 (中学校への適応感の把握) 第1回小中連絡協議会のもち方の相談 (日時、参加者、対象生徒、資料等) 気になる子どもについての情報交換 (きょうだいの欠席状況、家庭環境等) 	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談週間のもち方について助言 事前アンケート作成等への協力 小中連絡協議会のもち方について助言 不登校対策委員会への参加 (学校全体の欠席状況の把握、協議対象の子ども)の状況や必要な支援の見立て)
6	集団宿泊学習 教育相談週間	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談週間の実施状況の確認 →事前アンケートの記述や相談内容で気になるものがあれば、SCに相談 行事や部活動などへの参加状況の確認 →必要に応じて担任と連携、SCに相談 不登校対策委員会の開催 職員会で夏休み中の校内研修の提案 	<ul style="list-style-type: none"> 第1回小中連絡協議会の開催 (中1についての情報交換等) 小中教員相互の授業参観や、児童会と生徒会の交流等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 小中連絡協議会への参加、対応協議 不登校対策委員会での見立てや助言 気になる子どもへの対応を教育相談担当や担任等と相談し連携支援 授業や給食への参加 (子どもの観察、担任との情報交換) 校内若年研修での講話
7	総体 懇談会	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みに働きかけが必要な子どもの把握 不登校対策委員会の開催 (夏休み中の支援についての協議) →学年団会で共通理解、役割分担 懇談会を利用して保護者をSCにつなぐ 		<ul style="list-style-type: none"> 不登校対策委員会での見立てや助言 懇談会を利用しての保護者面接 夏休み中の役割確認、連携支援
8	夏休み	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修 (小中合同研修会) の実施 夏休み中の子ども達の状況確認 (登校日の欠席、部活動への参加状況等) →必要に応じて対応協議、連携支援 再登校を考えている子どもへの対応 	<ul style="list-style-type: none"> 小中合同研修会の開催 (SCの講話、事例検討会の実施等) 第2回小中連絡協議会の開催① (気になる子どもの情報交換、休み明けの対応協議) 	<ul style="list-style-type: none"> 研修会での講話・演習 事例検討会での見立てや助言 必要に応じて担任と一緒に家庭訪問 小中連絡協議会への参加、対応協議
9	休み明け (運動会)	<ul style="list-style-type: none"> 休み明け1週間の出欠状況等の把握 →必要に応じてSCとも対応協議 不登校対策委員会の開催 (9月に2日以上休んだ子どもの情報共有、支援体制の確認) 		<ul style="list-style-type: none"> 授業や給食への参加 (子ども)の観察、担任との情報交換) 不登校対策委員会での見立てや助言 必要に応じて担任と一緒に家庭訪問

月	学校行事等	教育相談担当の動き	小中連携のポイント	SCの動き
10	文化祭	<ul style="list-style-type: none"> 職員会で、教育相談週間の提案 不登校対策委員会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 小中教員相互の授業参観や、児童会と生徒会の交流等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校対策委員会での見立てや助言 授業や給食への参加 (子どもの観察、担任との情報交換)
11	(文化祭) 新人戦 教育相談週間	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談週間の実施状況の確認 →事前アンケートの記述や相談内容で気になるものがあれば、SCに相談 	<ul style="list-style-type: none"> 小中教員相互の授業参観や、児童会と生徒会の交流等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健委員会、PTA研修会での講話 教育相談週間での面接
12	人権集会 冬休み	<ul style="list-style-type: none"> 進級進学に向け支援が必要な子どもの把握 不登校対策委員会の開催 (冬休み前後の支援体制の確認) 	<ul style="list-style-type: none"> 第2回小中連絡協議会の開催② (第3回連絡協議会で取り上げる児童の基準や引継ぎ内容の相談) 	<ul style="list-style-type: none"> 気になる子どもへの対応を教育相談担当や担任等と相談し連携支援 小中連絡協議会への参加、対応協議
1	入試 音楽会 教育相談週間	<ul style="list-style-type: none"> 休み明けの出欠状況等の把握 必要に応じてSCとも対応協議 不登校対策委員会の開催 (1月に欠席が増えた子どもの情報共有、支援体制の確認) 	<ul style="list-style-type: none"> 小6へのアンケート実施 (中学校入学への期待と不安の把握) →気になる子どもについての対応協議 	<ul style="list-style-type: none"> 小6の授業や給食への参加 (子どもの観察、担任との情報交換) 気になる子どもへの対応助言、連携支援 小6の保護者との面接
2	入試 入学周知会	<ul style="list-style-type: none"> 不登校対策委員会の開催 (進級に向けた支援体制の確認) 今年度の成果と課題のまとめ 次年度の教育相談年間計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> 体験入学(小学生が中学校へ) SCの年間勤務計画、小中連絡協議会のもち方についての見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の成果と課題のまとめ 次年度の取組についての協議
3	入試 卒業式 修了式	<ul style="list-style-type: none"> 次年度支援が必要な子どもの把握 (今年度10日以上休んだ子ども等) →担任に引き継ぎ資料の作成依頼 進級時の再登校に向けた支援 次年度のSCの受入体制整備 (職員室の机の配置等) 	<ul style="list-style-type: none"> 第3回小中連絡協議会の開催 (小6についての情報交換) →新担任への引継ぎ資料作成 気になる新入生への連携支援 (入学に向けた本人・保護者への対応) 新入生の学級編成の相談 	<ul style="list-style-type: none"> 小中連絡協議会への参加、対応協議 気になる新入生への対応を小中教員と連携して支援